



院長あいさつ



呉羽総合病院 院長
緑川 靖彦

地域に愛され選ばれる 病院をめざして

平素より診療所の先生方、病院勤務の先生方、医療機関の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。平成 27 年 5 月に呉羽総合病院理事長・病院長に就任いたしました緑川と申します。私は、“地域に愛され、選ばれる病院をめざす”ということの基本方針といたしました。それを達成するために、“患者、家族に優しい病院”“地域への貢献”“広報、文教活動の推進”の 3 つのアクションを積極的に推し進めようと考えて

おります。

地域医療の深化とともに、地域における医療の役割分担を推進するためには、医療連携の果たす重要性は言うまでもありません。折しも、私たちを取り巻く医療環境は激変の渦中にあります。2025 年問題に対して、地域医療構想の名のもとに変革を迫られております。当院におきましても、より円滑で、密な地域医療連携を目指すべく、今後とも尽力して参ります。

現在、本邦は世界に類のない超高齢化社会に突入しました。今後約 25 年は死亡者の増加が見込まれ、一般病床での対応には無理が生じるとさえ言われております。今後、在宅医療が第 3 の医療として要諦を占めるのは必然であると思われまます。私どもは、折に触れて、在宅医療、在宅緩和医療の必要性、重要性についての啓蒙と、いわき南部における多職種連携の合同研修会の推進を行って参りました。今後とも、顔の見える医療連携を推進して、急性期医療はさることながら、在宅医療も含めて、患者、家族の希望、地域医療のニーズに応えて参りたいと考えております。

さて、地域医療の崩壊が叫ばれて久しいですが、なかなか解決の糸口が見つからないまま、勤務医も開業医も齢を重ね高齢化しています。これに追い打ちをかけるように、昨今、

“地方消滅”“消滅都市”という言葉が話題になり、地方の私たちを震撼させました。私は、これに抗うように、地域で生まれ、生き、逝く“地産地死”地域を提唱し、育てていきたいと考えております。住み慣れた地元で生活し、逝くことを支援していこうとする地域包括ケアシステムと理念を相似するものでしょう。皆様と一緒に妙案を模索して参りたいものです。

病院を取り巻く医療環境はますます厳しさを増しておりますが、近隣病院、診療所と連絡密な連携関係を築いて参りたいと考えております。私どもは地域社会に支えられているという認識を共有し、地域に愛され、選ばれる病院をめざすべく、地域社会への貢献にも努めて参りたいと考えておりますので、当院地域連携支援室ともども、今後とも御指導、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。



合同研修会での講演の様子

看護部長あいさつ



看護部長
水沼 美津子

地域連携支援室の 役割と期待

当院の地域連携支援室（設立当初の名称は医療相談室・地域医療連携室）は 2009 年 4 月 1 日に設置されました。高齢化社会が進

む現状を踏まえ医療・介護の相談に応じ、病院のサービス機能をさらに充実させる目的でした。今でこそ、この部署の必要性や機能を知らない方はいないと思いますが、当時は院内外においても機能を熟知している方は少なかったと思います。連携室は病院の「顔」と言っても過言ではありません。病一病連携や病一診連携をスムーズに行う、まさに顔の見える連携が地域を支える重要な役割と感じています。

設立当初の立ち上げに関わらせていただきましたが、当初は院内連携を図ることに重点を置きました。院内のスタッフ向けに連携室の業務や介護保険の詳細などを案内する、手作り新聞「連携だより」を発行したりしました。当時は、病床コントロール機能も持っていましたので入院・退院の調整で病棟スタッフや主治医の病床管理に対する理解を得るのに苦労したこともありました。また、市内の医療機関やクリニックさんとの顔の見える連

携の為、訪問挨拶に伺うなど、積極的に院外への周知対策にも取り組みました。

現在、病床機能は別部門へ移行しスタッフも一新し、医療ソーシャルワーカー（MSW）が中心に活躍しています。近年は患者・家族様のニーズも多様化しており疾病を持ちながらもできる限り地域や家庭において自立した生活を送るための医療・保健・福祉のサービス提供が要求されます。そのためにも多職種とのネットワーク構築なども重要で当院の連携支援室は、いわき南部地区の連携のつどい開催には積極的に関わっています。医療ソーシャルワーカーの存在や意義を理解し、十分な活用をしていただける取り組みを継続していく必要があると考えます。昨年からは始まった病床機能報告制度や地域包括ケアシステム構築など、たくさんの課題を抱えながら当院のあるべき姿を意識しながら地域連携支援室はこの先も活躍が期待される部署です。

がん性疼痛看護認定看護師の役割



がん性疼痛看護認定看護師
小川 ひとみ

その人らしい生活を
送れるように

今年7月にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得しました。現在は、外来点滴室と外科外来を主体に勤務しています。

皆さんの中には認定看護師って何？何をする人？という疑問を持っている方もいらっしゃると思います。日本看護協会の定める認定看護師の役割は「特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を持ち、看護実践できる看護師」とされ、その中でもがん性疼痛看護認定看護師は、①痛みの総合的な評価と個別的ケア②薬剤の適切な使用および疼痛緩和を得意な分野、としています。

がんの痛みというと、薬物療法によるコントロールが主体となる場合が多いのですが、がん患者さんの痛みは「全人的苦痛」と言われており、身体的な苦痛だけでなく、精神的・社会的、スピリチュアルな問題を抱えている患者さんがほとんどです。「その人がその人らしい生活を送れるように」、様々な問題に対して他職種と連携して解決できるように取り組み、患者さんとその家族も含めた支援をしていきたいと思っています。

メディカルサロン・すまいる

当院では平成27年5月より「メディカルサロン・すまいる」を開設致しました。がんと診断された方やそのご家族、慢性疾患の方など、どなたでも参加できます。

いろいろな悩みをお持ちの方が集い、語り合う場をご用意させて頂きました。医師、がん性疼痛看護認定看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどのスタッフが参加します。

詳細については、地域連携支援室までお問い合わせ下さい。



日時：毎週火曜日、午後2時から4時まで
場所：人間ドック控室
(呉羽病院健診センター)
*申し込み不要 無料
詳しくは、下記へお問い合わせ下さい。

■地域連携支援室
TEL：0246-62-3178



合同研修会および連携のつどい

「第10回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどい
および合同研修会」の報告



平成27年5月29日(金)、太平洋健康センター勿来温泉閣の湯に、いわき南部地区の多職種総勢130人が集いました。

「死が近づいたとき」と題しての当院院長・緑川医師の講演、「各専門職が出来ること」と題してのリレートークが行われ、活発な意見交換がされました。



「第11回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいおよび合同研修会」のお知らせ

日時：11月19日(木) 18:30～
場所：ガーデニア・イベントホール
内容：講演「倦怠感について」・その他
詳しくは、下記へお問い合わせ下さい。

■地域連携支援室
TEL：0246-62-3178

トピックス

「町なか がんサロン」開催!!

当院のメディカルサロン内において福島県立医大看護学部主催の「町なか がんサロン」1回目が9月29日、開催されました。

福島県立医大がん看護専門看護師の三浦浅子先生による学習会「長期生存がんサバイバーシップケア」をはじめ、リラックスの方法を知ろう等、和気あいあいと和やかな雰囲気のなかで行われました。

「町なか がんサロン」は11月・12月・2月にも予定されております。

詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

地域連携支援室 TEL：0246－62－3178



認知症サポーター養成講座で学習しました!!

～認知症を学び地域で支えよう～

9月4日、当院で認知症サポーター養成講座が開催されました。講師に勿来・田人地区保健福祉センター指導保健技師の草野早苗氏、勿来・田人地域包括支援センター社会福祉士の森川誠司氏を招き、事務職から医療専門職まで総勢約70人が参加しました。

認知症を理解し、認知症の人とその家族を支え、誰もが暮らしやすい地域を作っていく、町づくりを一市民として担えるようにとの思いで学習しました。



浜通り地区病院協議会野球大会で優勝

地域連携支援室 小野拓樹

9月20日に行われた第47回浜通り地区病院協議会主催野球大会で呉羽総合病院が2連覇を達成いたしました。昨年は46回目にして初優勝を飾り、今年は2連覇がかかる重圧の中、野球部一丸となり、頂点に立つことができました。

選手だけの力ではなく、グラウンドの外で声援を送って頂いた方々、ベンチで声をかけ続けてくれた控え選手、選手を支えてくれたマネージャーの力があっての優勝でした。個人的にもMVPを獲得することができ、とても有意義な大会になりました。チームを勝利へ導くために、一つでも先の塁へ進むという思いが、結果に繋がったと思います。

一度勢いづいたら止まらない呉羽総合病院野球部は、来年も優勝を目指します!



♪ インフォメーション ♪

あなたも脳の健康管理をしませんか？（脳ドックのご案内）

脳卒中は日本人の死因の第3位です。働き盛りが危ない！脳ドックで早期発見・予防をしましょう。

呉羽総合病院 健康管理センター・山口 順市

こんな方におすすめ！

- 高血圧や動脈硬化、糖尿病、肥満を指摘されていて、まだ脳の検査を受けたことがない。
- 物忘れがひどくなった / 周囲から物忘れを指摘される。
- 手足のしびれ、顔面の麻痺がある。
- 突然の頭痛におそわれたことがある。
- 40歳以上で一度も脳の検査をしたことがない。
- 手足が震えたり、ものをよく落とす。
- 血縁者で脳卒中になった人がいる。

脳ドックの検査内容

●頭部 MRI：頭部の断面を画像化する検査

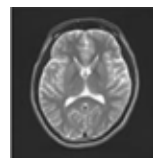
症状を伴わない「小さな脳梗塞」「脳腫瘍」「脳出血」などが発見できます。

●頭部 MRA：頭部の血管の様子を詳しく立体画像化する検査

「脳動脈瘤」「脳動脈の閉塞」などが発見できます。

●頸部 MRA：頸部の血管の様子を詳しく立体画像化する検査

頸部には、心臓から脳へ栄養や酸素を送る太い血管（頸動脈）があり、「脳梗塞」の大きな原因となります。頸動脈の動脈硬化の程度がわかります。



頭部 MRI



頭部 MRA



頸部 MRA

※発見される病気は、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、無候性脳梗塞、無症候性の脳出血、もやもや病等。

※当健康管理センターでは最新鋭の1.5T（テスラ）MRI装置を使用しております。MRI検査は放射線や薬品を使用せずに脳血管撮影ができる、無侵襲または低侵襲で安全な検査です。検査時間は頭部・頸部あわせて45分程度です。

※完全予約制となっており、直接またはお電話で承らさせて頂いております。尚、ご希望の期日の2週間前までには御連絡戴けますよう、宜しくお願い致します。

ご予約・お問い合わせ先

■呉羽総合病院 健康管理センター TEL：0246-62-3075

その他のMRI検査も受けておりますので、お気軽に放射線科までご連絡ください。

■放射線科 TEL：0246-63-2181

形成外科より美容外科 （自由診療）のご案内

形成外科では、レーザーによるシミの除去や、男性型脱毛症（AGA）の治療など美容外科（自由診療）の分野にも取り組んでいます。詳しくは、下記へお問い合わせ下さい。

■医事課 TEL：0246-63-2181

地域連携支援室

- TEL. 0246-63-2181 【代表】内線 168
- TEL. 0246-62-3178 【直通】
- FAX. 0246-62-2035
- E-mail t-takagi@kureha-hosp.com
- <http://www.kureha-hosp.com/>

- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合 1-1
TEL. 0246-63-2181
FAX. 0246-63-0552
URL <http://www.kureha-hosp.com/>
発行人 中村 有二
編集 地域連携支援室